

平成 29 年 5 月 11 日

日本学習社会学会会員 皆様

第 14 回大会実行委員会
実行委員長 入澤 充

日本学習社会学会第 14 回大会のご案内 及び自由研究発表の募集要項

会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

この度、日本学習社会学会第 14 回大会を国士舘大学（世田谷キャンパス梅ヶ丘校舎）で、平成 29 年 9 月 9 日（土）～9 月 10 日（日）に開催させていただくことになりました。

国士舘大学の世田谷キャンパスは、小田急線新宿から梅ヶ丘駅下車徒歩 8 分、周辺は住宅地という静かな環境の中に位置しています。7 学部 10 研究科を持つ総合大学として今年は創立 100 周年を迎えます。大学周辺は垣根も塀もなく地域住民の方々が自由に出入りし、学生食堂やスカイラウンジ（懇親会予定場所）を利用しています。

公開シンポジウムは、「防災教育と学校・地域の連携」というテーマで、国士舘大学防災・救急救助総合研究所の全面的協力を得て、大災害に備えて学校・地域がどのように連携して防災にあたるにはどうあるべきかを考えます。

研究所の所員は年間 100 日以上、全国各地の学校、自治体にでかけ防災教育の指導、実習を精力的に行っており、高い評価を得ています。また、ひとたび災害が発生するといち早く現地に赴き救急救助にあたるという活動も行っています。研究と実践を日々行う中で、防災教育は、どのように推進したら効果的かについて考えていきたいと思えます。

課題研究としては、「ナショナルカリキュラムと先住民族言語。文化学習（仮）」、「地域と学校の連携と社会に開かれた教育課程（仮）」という二つのテーマを設定します。

参加される皆さまにとって、多くの成果が得られる大会となるよう尽力する所存です。大会実行委員会一同、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

「自由研究発表の募集要項」を同封しています。**発表申し込みの締め切りは 6 月 19 日（月）（必着）**です。多くの会員のご発表を期待申し上げます。

日本学習社会学会第14回大会のご案内

(1) 大会期間と会場

期間 2017年9月9日(土)、10日(日)

会場 国士舘大学世田谷キャンパス(梅ヶ丘校舎)

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1

(2) 日程(一部変更の可能性もあります)

各種委員会・理事会 9月9日(土) 会場：国士舘大学世田谷キャンパス34号館	
10:00～11:00	年報編集委員会 研究推進委員会 国際交流委員会
11:00～12:30	全国理事会
学会大会1日目 9月9日(土) 会場：国士舘大学世田谷キャンパス34号館	
12:30～	大会受付・学会受付
13:00～14:30	自由研究発表 (休憩)
14:45～16:45	課題研究Ⅰ： ナショナルカリキュラムと先住民族言語・文化学習(仮) 課題研究Ⅱ： 地域と学校の連携と社会に開かれた教育課程(仮) (休憩)
17:00～17:50	総会 (休憩)
18:00～19:30	情報交換会
学会大会2日目 9月10日(日) 会場：国士舘大学世田谷キャンパス34号館	
9:00～	大会受付・学会受付
9:30～12:00	自由研究発表
12:00～13:00	(昼食休憩)
13:00～15:30	公開シンポジウム：防災教育と学校・地域の連携 ～国士舘大学防災・救急救助総合研究所の実践から～

(3) 大会プログラムの送付

7月中旬にお送りする予定です。併せて、大会参加申し込みはがき等を同封いたしますので、できるだけ事前にお申し込みください。

(4) 参加費用

一般会員	2,000円（正会員・臨時会員）
院生・学生会員	1,000円（院生・学生）
情報交換会（懇親会）	4,000円（正会員・学生会員）

*公開シンポジウムのための参加は無料です。

(5) 会場への交通機関

交通	○小田急線「梅ヶ丘」駅	徒歩	大学まで 約9分
	○東急世田谷線 「松陰神社前駅」または 「世田谷駅」	徒歩	大学まで 約6分
	○JR 渋谷駅西口バスターミナル 30番乗り場	バス	「渋52 世田谷区民会館」バスで終点下車、 徒歩1分

国士舘大学のホームページ「アクセス案内」をご覧ください。

<https://www.kokushikan.ac.jp/access/setagaya/>

※ご注意ください

- 2日目の9月10日（日）は、学内で一部通行できない箇所があります。
ご来校は、小田急線をご利用の上、梅ヶ丘駅下車で会場までお越しください。

(6) 近隣ホテルのご案内

*各自でご予約ください。

*都内に宿泊を希望される方は、新宿近辺が便利です。

課題研究 (9月9日(土) 14:45~16:45)

(1) 課題研究Ⅰ：ナショナルカリキュラムと先住民族言語・文化学習（仮）

国連総会で採択された「先住民族の権利に関する国際連合宣言」(2007年)など、諸民族の言語・文化権の権利回復を目指す動きが広がっている。とりわけ民族のアイデンティティ形成の基盤となる民族独自の言語・文化による教育を受ける権利の保障(14条)においては、日本のアイヌ、琉球・沖縄などの先住民族に対する法的な枠組み構築の必要性が期待されている。本課題研究では、オーストラリアにおける言語の地位の平等化に関して造詣の深い3名の専門家を招聘し、主にアボリジニの言語の平等化を目指した取組みモデルに関する知見を得ることを目的のひとつとする。その上で、危機に瀕する先住・少数民族の言語の維持・復興について考える機会を得ながら、日本の現状に即してそれらの問題関心ならびに考察が深められることを意図する。

報告1：Jeane Freer (モナッシュ大学)

報告2：Peter Anderson (ニューサウスウェールズ大学)

報告3：Zane Ma Rhea (モナッシュ大学)

司会：佐藤千津 (東京学芸大学)

(2) 課題研究Ⅱ：地域と学校の連携と社会に開かれた教育課程（仮）

新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」がキーワードの一つとなっている。社会に開かれた教育課程は、学校教育を学校のなかだけで完結させるのではなく、その過程、および出口において社会との関連性を強めていくことを意味するものである。学校はこれまで以上に地域をはじめとした学校外の社会との連携のなかで「真正」の教育活動を行っていくとともに、子どもたちに社会生活で活用できる実践的な能力を育成することが求められているといえるだろう。

本課題研究で議論を深めたいのは、この社会に開かれた教育課程において、地域と学校の連携がどのように活かされるのか、その可能性を検討することである。地域と学校の連携を通じて児童生徒の学習の質が高まるのか、それとも形式的な体験にとどまるのか。どのような点に留意することがより良い教育実践をもたらすか、また地域と学校の連携を豊かにするのかを、理論的・実践的に追究したいと考えている。

報告1：未定

報告2：未定

司会：未定

公開シンポジウム（9月10日（日）13:00～15:30）

防災教育と学校・地域の連携

～国士舘大学防災・救急救助総合研究所の実践から～

国士舘大学防災・救急救助総合研究所は、設立以来「自然災害、人為災害、特殊災害等について知識を身につけるとともに、地震、津波、火山噴火、河川の氾濫、集中豪雨等のメカニズムを理解する。また、災害時に役立つ、消火法、救助法、応急手当、搬送法等を学び、加えて、災害に関連した心の病に対する心理学的な対処法を身につける」防災総合教育を推進してきました。

本学では、研究所の取り組みを大学教育に活かし、現在は全学生を対象に防災総合基礎教育を開講し、防災に対する知識と技術を身につける教育を実践しています。このような教育を受けた学生は防災ボランティアとして東日本大震災や熊本地震、鳥取県中部地震等々の被害を受けた地域で積極的に災害支援活動を行い全国から注目されてきています。その結果、全国の学校、地域から防災教育指導の要請を受け研究所では各地に指導に赴いております。

一方、災害救助のみではなく、予防対応と救急救命にも対応し、東京シティマラソンや全国各地で行われるイベントに救護隊を派遣し、救命に実績を上げてきました。

本シンポジウムは、国士舘大学防災・救急救助総合研究所が行っている研究と実践を披露していただき、さらには地域学習として活かしていくために、本機会を通して会員、地域住民の皆様と防災教育の在り方、学校と地域の連携について考えていきたいと思っております。

ぜひともご参加ください。

なお、9月9日土曜日は、防災教育および防災訓練が行われています。学会参加者の皆さんにぜひご覧いただきたいと存じます。

報告1：国士舘大学防災・救急救助総合研究所員（予定）

報告2：依頼中

報告3：依頼中

コメンテーター：国士舘大学防災・救急救助総合研究所員（予定）

司会：入澤 充

自由研究発表の募集要項

—日本学習社会学会第14回大会—

1. 発表の申し込み締め切りについて

—2017年6月19日(月) 必着—

大会実行委員会入澤 充宛に、6月19日(月)(必着)までに、下記E-Mailでお申し込みください。発表申し込みの際、発表申込者の氏名、所属、連絡先、発表題目、発表の際に必要な機器を記載してください。発表申込者には、大会実行委員会より申込受付の返信メールをお送りします(3日以内に返信メールが届かない場合は、下記連絡先までお知らせください)。積極的な研究発表を期待申し上げます。

*会員以外は発表者にはなれません

共同研究の発表者でプログラムに○がつかない場合も例外ではありません。未入会の発表希望者は、日本学習社会学会事務局に入会をお申込みのうえ、6月19日までに入会手続きを完了してください。詳細は、日本学習社会学会HPをご覧ください。

*会員も会費未納者は発表できません

共同研究発表者を含め、2015年度までの会費を納入していることが必要となります。

※所属・住所変更はお早めに

発表申し込み後、所属・住所等が変更になられた場合には、速やかにご連絡ください。

【連絡先】

〒154-8515 世田谷区世田谷4-28-1

国士舘大学法学部入澤 充研究室内

日本学習社会学会第14回大会実行委員会

Tel : 03-5481-5359 (入澤研究室、火・水・金 10:00~16:00)

080-5388-1532 (入澤携帯)

E-mail : irisawa@kokushikan.ac.jp

2. 自由研究発表の発表時間

発表時間は以下の通りです。

個人発表 20分 質疑応答 5分

共同発表 30分 質疑応答 10分

3. 発表要旨集録の原稿作成について

— 2017年8月7日（月）必着 —

自由研究発表を申し込まれた会員は、下記の【発表要旨原稿作成要項】にしたがって原稿を作成し、E-Mail（添付ファイル、Microsoft Word）で、8月7日（月）（必着）までに大会実行委員会（前頁【連絡先】参照）に提出してください。

【発表要旨原稿作成要項】

- (1) 原稿締切 2017年8月7日（月）必着
- (2) 原稿サイズ A4 縦長 横書き
- (3) ページ設定 文字数 40文字、行数 40行
余白 上下左右ともに 25mm
- (4) ページ数 個人発表 2頁以内 共同発表 4頁以内
*1 頁目の7行目までに発表題目、氏名・所属と、キーワードを記載し、本文は8行目から記載して下さい。
*名前の上に、いくつかのキーワードを入れて下さい。
例：地域教育・コミュニティスクール・地域学校運営・地域づくり
- (5) フォント等 基本的には、提出者の原稿のまま印刷する予定です。
 - ①発表題目：（主題・副題ともに）ゴシック 12pt 中央揃え
 - ②発表者名（所属）：ゴシック 12pt 右寄せ
 - ③キーワード：ゴシック 12pt 左寄せ
 - ④本文小見出し：明朝体 12pt（太文字）
 - ⑤本文：明朝体 12pt（標準）
- (6) 留意事項
 - ①発表要旨原稿には、脚注等の機能を使用しないでください。
 - ②発表要旨原稿の電子fileは、Microsoft Wordをお願いします。

4. 発表当日の留意事項

- ①発表用配布資料は、発表者が事前に自分で印刷の上、会場にご持参願います。
- ②発表部会の発表資料は、各自 50部を目安にご用意ください。